

科目ナンバー	PHI-1-005-ky			科目名	人権と共生		
教員名	前田 由美子			開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
概要	人間の基本的権利とはどういうものか。どういうことができて、どういうことはできないのか。できる・できないを他者との関係で考える。人権とは、なぜ生まれたのか?それを維持するにはどうしたらいいのか、法の規定する人権を具体的に学んだ上で理解していく。また、人権と深くかかわりのある「尊重」を学ぶ。自分という存在と他者という存在、それぞれを認め尊重するということがどういうことなのか、身のまわりの具体的な出来事から考える。また、そこに起こっている問題をいくつか取り上げ、その問題の意味や構造を明らかにしていく。人と人のつながりにおいて、自分にとっても他者にとっても心地よい関係とはどういうものか、心地よくない関係とはどういうものか、それはどこにあるのかを考えつつ、「共に生きる」とはどういう関係を創ることなのか、身近な関係から考える視点と社会構造的な人権問題という視点のつながりの上に見て理解し、その具体的な方策を考えたい。						
到達目標	「自己を尊重する」ことができてはじめて「他者を尊重する」ことができる。では「自己を尊重する」とはどうすることなのか。なぜ、そのような関連があるのか。「わがまま」と「自己の尊重」はどう違うのか。「自己を尊重する」ということが、なぜ大切なのか。人間の尊重と「人権」の関係を、理論的に理解し、そのことと「他者を尊重する」ことはどうつながるのかを考える。自分自身の「あり方を考える」ということから、自分の生きる社会を今までと異なった視点でもう一度見つめなおしてみる。「ちがっていい」、「わからない部分がある」けれど、そのままに関わりあって生きていく、「わからない」ということを大事にしながら、つながっていくということを理解してほしい。						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力		伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度		自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力	
グローバル・マインド	○	主体性	○	関係を構築する力		実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法	基本的には講義式をとるが、周囲にある暮らしや社会の問題についての議論、文献の事例からの具体的な問題について意見交換を行う。テーマへの疑問や意見にも答える。「他者を知る」を大切に問いつつ議論を進める。実態のビデオ資料なども利用しながら、理解を深める。ショートレポートを数回。グループワークを経てレポートを作成する場合もある。質問・意見には随時対応する。						
アクティブラーニング		○	サービスマーケティング		○	課題解決型学修	
受講条件 前提科目	人数制限等は設けないが、真剣にテーマを考えること、他者と真摯に向き合って、意見の交換をすること。テーマについて考えを深めるためにショートレポートを数回書くことになるが、それらにも丁寧に取り組むこと。						
アセスメントポリシー及び評価方法	ショートレポート:授業での感想や質問へのリアクション(約40%)、学期末レポート(約60%)で総合評価する。						
教材	『茶色の朝』フランク パヴロフ著 大月書店ISBN13 9784272600472						
参考図書	『人権で世界を変える30の方法』ヒューマンライツ・ナウ『日本国憲法の論点』伊藤真『いかそう日本国憲法』奥平康弘『おしえて、ぼくらが持ってる働く権利』清水直子『反貧困』湯浅誠『ブラック企業』今野晴貴他に多数あるので、授業で紹介する。また、参考にしたい映画も多数提示する。						
内容・スケジュール							
1週目							
授業学修内容	講義全体についての説明。人間の法的権利とはどういうものか、「共生」という概念と結びつくのはなぜか。						
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること					時間数	0.5
2週目							
授業学修内容	人間の法的権利の歴史、近代以降の人権という考え方について。その理論の成り立ちについて。「自由」の意味、平等とはどういうことか、について。						
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること					時間数	0.5
3週目							
授業学修内容	自分を肯定するということ 安心感・肯定感について。自分を肯定できるとはどういうことか。人権と、肯定感あるいは自尊感情との関係。なぜ、それらと人権は関連するのか。						

授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
4週目			
授業学修内容	他者との関係自分を尊重するということと、他者を尊重するということの関係について。人間の権利という視点でそれらを考える。人間の権利について。「人権」規定より学ぶ。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
5週目			
授業学修内容	社会的に弱い立場であるということ。社会的に強い立場であるということ。それらを人権という概念で考えると、自分の立場はどのように見ることができるか。人間の権利についての法にのっとって理解する。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
6週目			
授業学修内容	弱いということ・強いということ・足元から世界へ。社会的に弱い、強いという問題には何があるか。具体的例で考える。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
7週目			
授業学修内容	子どもの権利(その歴史と現在)子どもとは、どういう立場か。その立場に「人間の権利」を見ることの歴史的な意味、なぜ子どもの人権を考えるのか、子どもにどのように対応してきたのか、大人社会の子どもに対する問題を歴史的に考える。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
8週目			
授業学修内容	子どもの権利(学ぶということ・主権者であるということ)について。子どもは学ぶ権利の主体である、ということを考える。学校と大人と子どもの現在の関係、そこにある問題について具体的に考える。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
9週目			
授業学修内容	関係にある問題(社会的な人権問題としてあるもの)。子どもに対する大人からの「暴力」の問題。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
10週目			
授業学修内容	労働者の問題(働くということ・自立するということ)。労働者という立場はどういう立場か、そこにあるのはどのような問題か、労働者間の格差問題を考える。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
11週目			
授業学修内容	若者の問題。若者が社会的弱者である、とはどういう問題か。若者の労働問題、自立がなぜ難しいのかを具体的に考える。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
12週目			
授業学修内容	関係にある問題(家族の中で)。親子という関係、夫婦という関係にある問題。家族内の人間関係になぜ暴力が存在するのか。それは、将来的にどのような問題につながるのか。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
13週目			
授業学修内容	関係にある問題。閉じられた仲間(他者とのつながり)の中での具体的な人権の問題。		
授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んでくること	時間数	0.5
14週目			
授業学修内容	共に生きるということ「わからない」他者とともに生きる、を考える。「わからない」と「共に」「わからないから尊重し合う」		

授業外学修内容	授業前に資料(文献資料)を読んてくること	時間数	0.5
15週目			
授業学修内容	まとめ。期末課題をどう考えるか、どのように深めるか。		
授業外学修内容		時間数	
上記の授業外学修時間の合計		7	
その他に必要な自習時間		83	

Number	PHI-1-005-ky	Subject	Human Rights and Symbiosis		
Name	前田 由美子 (Maeda Yumiko)	Year and Semester	First semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>What is human rights? What can we do and what we can not do. You think about what you can and can not do with other people. Why was human rights made? You will understand what to do to maintain it after learning the human rights stipulated by the law concretely. Also, learn "respect" that is deeply involved with human rights. Think about what it is like to recognize and respect each one of existence and existence of others. In connection with people, considering a pleasant relationship for themselves and others, what kind of relationship is not pleasant, what kind of relation is to be created "to live together". Understanding on the connection between perspectives considered from close relationships and social structural human rights issues, you will think about concrete measures.</p>				